



R7町内版  
第3号

発行: 富山県立入善高等学校  
放送広報部  
電話(0765)72-1145  
ホームページ  
<http://www.nyuzen-h.tym.ed.jp/>

# 私たちの声を県政へ

## 副校長とやま県議会参加

「高校生とやま県議会」は、高校生の政治参加や社会参画への意識向上を目的に、平成28年から開催されている。今年度は6つの委員会に分かれ、若者の県政

参画や富山の食文化、教育振興といった多岐にわたるテーマで協議を重ねてきた。12月17日には富山県議会本会議場で各委員会の代表生徒による意見発表が行われ、最後に新田県知事から講評をいただいた。【写真】本校からは山本七海さん(2年)が参加、第2委員会若者の県政参画について話し合い、県のYouTubeチャンネルの活性化策を提案した。山本さんは、「県のウェルビーイング向上について話し合う中で、普段意



識していなかった問題も、深く知ること自分たちに身近なテーマだと実感できた。また、たとえ意見が異なっても、対話を重ねて一つの提言にまとめ上げてい

く協力のプロセスが印象に残っている」と振り返った。「今回の学びを通じ、身の回りの小さな疑問を大切にしたいと気づいた」と語る山本さん。政治を縁遠いものと感じる生徒は少なくないが、身近な課題に向き合い改善を試みるこそが、政治を変える第一歩となる。こうした対話の輪を家族や友人に広げ、関心の種を育てていくことが、これからの地域社会にとって大切な力となるだろう。(放送広報部 道下・飛弾柳澤)



# 祝 卒業

## 最高の人生のを見つけ方

校長 五十里勘司



同名の映画が日本でもリメイクされて、多くの人々に感動を与えた映画に「最高の人生の見つけ方」(アメリカ作)というものがある。

傲慢で気ままなお金持ちのエドワードと自動車整備工として油に塗れて

仕事をしてきたカーター。ともに60を超え、ガン宣告を受け、奇しくも同じ病室で闘病することとなる。財産、経歴、性格、すべてが異なる二人はまったくそりが合わない。そんな二人が打ち解け、尊敬しあい、無二の親友になっていくきっかけとなったのが、カーターがメモに書き出した「死ぬ前にやりたいこと」とリストだった。そこには「スカイダイビングをする」「ピラミッドに登る」「レーシングカーをぶ

つ飛ばす」など、これまで仕事に追われて実現できずにいた夢の数々が書かれていた。お金持ちのエドワードの提案で、二人は家族に行先も告げずにカーターの夢を実現するための旅に出る。次々とそれらを達成していくものの、病状は確実に悪化、と同時に、カーターの胸中には虚しさが広がっていく。「どうせ、俺は死ぬ。こんなことして、何になるのか」。そして、家族の愛が何ものにも代え難

いことを悟り、エドワードを残して家族の元へと帰る。その矢先にカーターはこの世を去ってしまった。一人ぼっちになったエドワードは何度かの結婚生活のうちにもうけた、ただ一人の娘に会いに行く。そして娘の家にいた孫にあたる幼女からキスされたエドワードは、カーターの代わりに彼が実現できなかった「世界一の美女とキスをする」の夢を実現することとなった。

卒業を迎えた3年生の胸中には、はちきれんばかりの夢が満載である。その夢の実現に向かって、思い切り全力でぶつかって行こう。ただし、君たちをここまで育て支えてくださった「家族、親御さん」から受けた愛情、御恩に対する感謝の念は決して忘れてはならない。君たちの人生が最高のものになり得るのは、夢を実現したときであるかもしれないが、それらは家族の支えがあつて、初めて成し得るのだから。



【吉田科学館FW】

自然科学コースの2年生が2班に分かれて、プラネタリウム研修(8月22日)と扇状地湧水研修(8月26日)を行った。プラネタリウム研修では、昨年同様、アプリを使用して、プラネタリウム番組の制作を行った。また、望遠鏡研修では、郊外の観察時間を多くしたこと、生徒たちは楽しそうに、いろいろなものに焦点をあてて観察していた。湧水研修では、愛本橋付近の川幅が非常に狭い理由や、園家山の一等三角点について説明を受けた。例年通り、水質調査に



も取り組んだ。

【クリスマスレクチャー】

12月10日、「ロボットと友達になれるか」と題して富山県立大学の増田教授にご講演いただき、自然科学コースの2年生と来年度自然科学コース希望の1年生が受講した。



ロボットは一つの分野だけで作ることはできず、様々な分野が連携して作られることを学んだ。また、今後AIと人間が協力しながらより良い社会を築いていくことが大切だと教わった。

【農業科 デュアルシステム型 委託実習報告会】

11月12日(水)にデュアルシステム型長期委託

実習報告会が行われた。

長期委託実習は平成25年度から実施され、今年度で13回目となっている。入善町と朝日町の受入れ農家に、5月から10月の間の10日間、生徒は



2〜4名ずつに分かれ、実習を行った。報告会当日は農業科

3年生30名が、それぞれの農家で学んだ実習内容や農家の経営方針などを受入農家の方の前でプレゼン形式で報告した。生徒は、学習内容を互いに共有でき、実りの多いものとなった。

【農業科 課題研究発表会】

1月23日(金)、コスモホールにてNEW農チャレンジ報告会・農業科課題研究会が行われた。各班が自分たちで設定したテーマに沿って約2年間研究してきた内容をプレ



ゼン形式で発表した。NEW農チャレンジは令和元年度に始まり、町の特産品の研究栽培を行っている。今年で7回目となる報告会では、入善ジャンボ西瓜の観賞用の四角いスイカづくりやチューリップの生産性向上に向けた試験栽培や知名度アップへのPR活動について発表した。また課題研究発表会では、作物・野菜・草花・バイオの各分野で計6つの発表を行った。3年生は発表スライドの作成や発表練習に多くの時間を費やし、発表会に臨んだ。当日、生徒らは緊張しつつも3年生らしい堂々とした態度で発表を行い、充実した発表会となった。

【観光ビジネスコース 活動報告】



【アートリズムワールドワーク】

10月30日(木)に黒部市美術館等の協力のもとアートリズムワールドワークを行った。黒部市コミュニティセンターでのアートプロジェクト「Infinity mirage」では、地域環境の屋気楼の魅力を題材に作品を展開するアートの意義、面白さに触れることができた。海の駅屋気楼を訪れ、数キロ先の生地海岸の壁面に映る「8」が確認でき



るかどうか生徒たちは真剣に双眼鏡を覗きこんでいた。11月13日(木)には、各グループが屋気楼の魅力発信するために



はどのような工夫があれば良いのかを考え発表し、黒部市美術館、魚津埋没林博物館の方から講評をいただいた。

【ワールドワーカーサマ】

1月より観光ビジネスコースでは、生徒自身が興味関心に基づいて独自のテーマを設定し、調査を行うワールドワーカーサーチを町内外で行っている。地域の姿を生徒たち自身が自分の言葉で描き出すことが目標である。